

生物多様性しんぶん

? クイズ 森のふしぎ？

参加者の皆さんが森で見かけた不思議をクイズにしました。
（答えは下欄参照）



木肌がカサカサになった杉の木を発見しました。ある動物の仕業ですがその動物とは？



幹に大きな亀裂の入った杉の木がありました。どうして亀裂が入ってしまったのでしょうか？

写真の男の子は何を覗いているのでしょうか？
答えはブルーメライスと呼ばれる、木の高さを測る時に使う道具です。やまんじ隊長に教わって、実際に木の高さを測ってみました。
街中では決してできない貴重な体験となりました。



森でしかできない貴重な体験をたっぷり

冬イチゴ摘み

山の中を散策していると、小さな冬イチゴの実を発見。
摘んでそのまま食べてみると…。
冬イチゴは酸っぱく、甘く、おいしかったです！



どんな香り？

クロモジの葉をみると臭いをかいでみると…。
それは芳香剤のようないい香りでした。

ストラップ作り

ツアーの思い出にクロモジなどの茎を使って、世界にひとつしかないストラップを作りました。



ツアーを終えて

参加者のみなさんが森のことや水のことについての関心が高く、リアクションも良かったので、非常にうれしく思いました。普段からよく訪れている森ですが、こうしてみなさんとお話をしながら巡ると、改めて気付かされることも多く、私自身にとって有意義な時間となりました。とくに子どもたちには、今日学んだことや発見したことを、いつか何かの機会に思い出してもらいたいと思います。



参加者の声

自然と触れ合える、良い機会となりました

伊藤先生の話が分かりやすく、子どもも興味を持って聴いていた

森林や環境への興味がさらに深まった

水源を実際に見ることができてよかった

通常では入れない森林で貴重な体験ができた

暮らしを支える大切な水

水源を見学

一行は、山の幸たっぷりな弁当を食べ、腹ごしらえした後、森林体験に出発。最初に近くの集落の水道資源となつて、森に体験に出発。いる小さなダムを見学しました。
雨水が、やがて川に流れ込み、最後は各家庭の水道水になった。ということを知りました。



最初の1滴

途中、一見何もなし所で、伊藤さんは足を止めました。よく見ると、葉っぱから水のしずくがポタポタと垂れています。実は、このほんの小さな1滴の水が集まって1筋の流れとなり、川へと注ぎ込んでいるのです。その流れは山から海へと続いています。



森林保全体験から生物多様性を学ぶバスツアーを開催

令和元年9月21日（土）、なごや生物多様性センターは「森林保全体験から生物多様性を学ぶバスツアー」を開催。市民公募の子ども16名とその保護者ら40名が参加し、岐阜県下呂市にある岐阜大学附属位山（くらいやま）演習林での森林体験を通じ、森林が持つ機能や重要性を学びました。

【講師紹介】 伊藤栄一さん

（特定非営利活動法人
森のなりわい研究所）

森に関わるあらゆることに対応できる「田舎のシンクタンク」を目指してさまざまな活動を行っている「森のなりわい研究所」の代表。森に関する知識が豊富で、「やまんじ隊長」と呼ばれ、子どもたちからも大人気。



ツアー日程

- 08:00 生物多様性センター 発
- 11:40 岐阜大学附属位山演習林 着
昼食
- 13:00 森林体験スタート
- 15:20 ストラップ作り
- 16:00 岐阜大学附属位山演習林 発
- 19:00 生物多様性センター 着

